関数・論理型プログラミング実験 ML演習第5回

松田 一孝 TA: 武田広太郎 寺尾拓

今日の話

- ο 5/01:簡単な評価器
 - ◆ 字句解析・構文解析。簡単な評価器
- ο 5/13: 関数型言語の評価器
 - ◆ (高階) 関数定義・呼出機構の作成
- o 5/20:型システム
 - ◆ ML風の型推論の実装
- o 5/27:その他拡張
 - ◆ 評価規則等

話の流れ

- 関数定義・呼出機構の実現
 - ◆ 非再帰関数
 - ◆ 再帰関数
- 0 パターンマッチ

復習:前回のレポート課題

- o 環境
 - ◆ 変数の実現に利用
 - ◆ 変数から値へのマッピング

eval : env -> expr -> value

目標その1

- 前回の言語に さらに関数抽象・適用を加えよう
 - ◆ 関数抽象 (fun式)
 - ◆ 関数適用

fun式の「値」?

fun x → eを評価すると何に?値の「つかわれ方」を考える

(fun x -> e) e'の評価

e'の評価結果をv'とすると xをv'としてeを評価

試案

o fun式そのものが値

```
Efun of name * expr
type expr = ···
                   EApp of expr * expr
and value = ··· | VFun of name * expr
let rec eval env expr = match expr with
  EFun (x, e) -> VFun (x, e)
EApp (e1, e2) ->
     let VFun (x, e) = eval env e1 in
     let v2 = eval env e2 in
        eval ((x, v2) :: env) e
```



うまく行きそう?

うまくいかない例

```
(let y=5 in fun x \rightarrow x + y)
                    環境 {y=5} で
枠内の式を評価
          (fun \times -) \times +y)
```

環境{x=3}で x+yを評価 エラー: yは未定義

観察

fun $x \rightarrow e$

- o 式eはこの式の外側で定義される変数 (自由変数)を含む
- o fun式そのものを評価結果とすると自由変数の値の情報が失われる
 - ◆ 例: let y = 5 in fun x -> x+y

解決案: 70一ジャ

- fun式の評価結果をクロージャにするクロージャ:関数と環境の組
 - * スライドでは〈関数、環境〉と書く

```
and value = ··· | VFun of name * expr * env ...

let rec eval env expr = match expr with ...

| EFun (x, e) -> VFun (x, e, env) ...
```

クロージャの適用

◆ fun x -> e, oenv〉 vの評価
 ◆ 環境oenvにxとvの対応を追加し
 eを評価

```
let rec eval env expr = match expr with
...
| EApp (e1, e2) ->
let VFun (x, e) oenv = eval env e1 in
let v2 = eval env e2 in
eval ((x, v2)::oenv) e
```



```
(let y=5 in fun x \rightarrow x + y)
                            環境{y=5}で
枠内の式を評価
       \langle \text{fun } \times - \rangle \times +y, \{y=5\} \rangle
                              環境 {x=3, y=5} で
x+yを評価
```

8

まとめ

- 関数抽象・関数適用の評価
 ◆ クロージャ
 - - * 関数抽象がどの環境で行われたかが大事

余談:動的スコープ

- 「うまく行かなかった」とした方法は 動的スコープに対応
 - ◆ 以下の式の評価結果は?

let
$$y = 1$$
 in (let $y=5$ in fun $x \rightarrow x + y$) 3

* 静的スコープ:8 動的スコープ:4

余談:letと関数抽象·適用

- \circ let $x = e_1$ in $e_2 > e_2$ (fun x -> e2) e1 はとても似ている
 - ◆ 今回の範囲では同一視可
 - ◆ しかし, OCamlでは (Haskellでも) 両者は異なる * どういうとき異なるか?
- o 答えは来週

目標その2

o さらに再帰関数を追加せよ

問題

let rec loop n = loop n in
loop 0

復習:fix

```
fix (fun f x -> e)

\equiv

let rec f x = e in f
```

解決案

```
• fix (fun f x -> e)に
  対応する「値」を作る
  ◆ スライドでは〈fix (fun f x -> e), env>
type expr
            ERLet of name * name * expr * expr
and value = ···
           VRFun of name * name * expr * env
let rec eval env expr = match expr with
 ERLet (f, x, e1, e2) \rightarrow
    let env' = (f, VRFun (f, x, e1, env))::env in
       eval env' e2
```

適用のアイデア

o fix h x = h (fix h) x に基づく

```
fix (fun f x -> e) v
= (fun f x -> e)
(fix (fun f x -> e)) v
```

再帰関数の適用

- o 〈fix (fun f x -> e), env> v
 - ◆ 環境envに, fと〈fix (fun f x -> e), env>, xとv の対応を追加し, eを評価

議論: let rec f = e

- Q. let rec f = eの形をどうして禁じる? A. 簡便のため
 - ◆ let rec f = eだと, eがこの時点で評価されることを期待 * let rec f = print_string "hey"; fun x → ...
 - ◆ しかし, eはfを含むかもしれず 一般には評価できない
 - ◆ 評価してよいeを適切に定めるのは大変
 * 事実, ocamlの許容するeの形は複雑

他の解決法

o 循環的なクロージャを用いる

$$\rightarrow$$
 (fun x -> loop x, {loop= \rightarrow } >

◆ 循環構造は副作用を用いて作成可

さらに別の解決方法

- 再帰関数がトップレベルのみに 出現するのなら楽
 - ◆ 再帰関数名 → 式 のマッピングを予め与えられる
- o lambda-liftingを利用すれば 式を上記の形に変換可

```
let y = 1 in
let rec f \times = f \times + y in f = 2
```

```
let rec f x y = f x + y in
let y = 1 in f 2 y
```

目標その3

- パターンマッチング (による場合分け処理)を実装しよう
 - ◆ 要はmatch式の実装

match式の評価

- match e with $p_1 \rightarrow e_1 \mid \cdots \mid p_n \rightarrow e_n$ は以下のように評価
 - ◆ 式eを評価し値vを得る ◆ パターンp1とvを照合:
 - - * 照合すれば環境に結果を追加しe1を評価
 - * しなければ次ステップへ

 - ◆ パターンpnとvを照合:
 - * 照合すれば環境に結果を追加しenを評価
 - * しなければエラー

パターン照合

- 入力:パターンと値
 - 出力:成否と束縛
 - ◆ 束縛:変数から値へのマッピング
- o例
 - ◆ 1と0→失敗
 - ◆ 1 と 1 → 成功
 - ◆ xと1→成功 {x=1}
 - ◆ (x, y) と (1, (2, 3)) → 成功 {x=1, y=(2, 3)} ◆ (x, 1) と (2, 3) → 失敗

第5回レボート課題 締切: 2週間後の13:00 (JST)

- 前回の課題のインタプリタを拡張し 関数抽象・適用を扱えるようにせよ
 - ◆ 構文は最低以下のものをサポート
 - * fun 変数 -> 式
- o 関数適用の優先度は最強,
 - 左結合とすること
 - ◆ f x * 1 は (f x) * 1
 - ◆ f x y は (f x) y

- インタプリタを拡張し再帰関数を扱えるようにせよ
 - ◆ 構文は最低以下をサポート
 - * let rec 変数 変数 = 式
 - o 変数が二つ(以上)なのは簡便のため
- o 実装はどんな方法を用いてもよいが, きちんと自分の言葉で説明すること

- インタプリタを拡張しパターンマッチを行えるようにせよ
 - ◆ 構文は最低以下はサポート
- o パターンは整数,真理値,変数でよい

ヒント

- o 以下の型を持つfind_match関数を作る
 - find_match :
 - pattern * value -> binding option
 - * patternはパターンの型
 - * bindingは束縛の型
 - o 環境の型と同じでよい
- o あとはfind_matchを利用しパターンマッチング式の評価規則を実装する

注意

- o ネストしたときの挙動に気をつけよ

q -> e | r -> ···

◆ 解決法は 「dangling else」等のキーワードで 調べる

- インタプリタを拡張し、組とリストを 扱えるようにせよ
 - ◆ 構文は最低以下をサポート
 - * 式 :: 式 o 右結合
 - * []
- 0 パターンマッチも行えるようにせよ

```
    インタプリタを拡張し、相互再帰関数を扱えるようにせよ
    構文は最低以下をサポート
    * let rec f<sub>1</sub> x<sub>1</sub> = e<sub>1</sub> and f<sub>2</sub> x<sub>2</sub> = e<sub>2</sub> ...
    and f<sub>n</sub> x<sub>n</sub> = e<sub>n</sub> in e
```

補足1

- o fixのアイデアを利用する方法だと:
 - ◆ 関数fiを ⟨i;(f1, x1, e1), …, (fn, xn, en); env⟩ という形の値で表現すればよい
 - ◆ 上の値をvに適用
 - * 環境envに f₁とく1; (f₁, x₁, e₁), ···, (f_n, x_n, e_n); env> ··· f_nと〈n; (f₁, x₁, e₁), ···, (f_n, x_n, e_n); env〉 と x_iとvの対応を追加した環境で e_iを評価

補足2

●循環的なクロージャを用いる方法だと●以下のような循環的な環境を作ればよい

```
env: \{f1 = \langle fun \times 1 - \rangle e1, env \rangle, f2 = \langle fun \times 2 - \rangle e2, env \rangle, \dots
fn = \langle fun \times n - \rangle en, env \rangle \}
```

補足3

 lambda-liftingを用いると プログラムを以下の形で eがlet recやfun式を含まないもの に書き換えられる

```
let rec f_1 \times_1 = e_1
and f_2 \times_2 = e_2
...
and f_n \times_n = e_n in e
```

課題全体の補足

- 問1~5の実装はまとめて一つでよい→レポートはだめ
- 構文解析器の作成に時間を掛けるのは 問題の意図から外れるので、サポートサイトに置いてあるものを 利用可
 ◆ ただし、参考にした旨は書くこと

発展1

O CEK抽象機械について調べ、 今回の演習で扱う言語の CEKに基づくインタブリタを作成せよ

発展2

- o インタプリタにcall/ccを追加せよ
 - ◆ 発展1のインタプリタに追加すると楽
 - ◆ 評価器を変更せずとも, 式を別の形の式に変更することで実装 が可能となる?